吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

4-1

提出日	令和6年5月21日	
記入者	団体等名	NPO 法人病児保育をつくる会
	記入者名	三上　久子
	部署名	子育て支援課
	記入者名	坂本　敦哉

1｜協働事業の概要

協働事業名	緊急サポート事業	
事業の実施者	団体等	NPO 法人病児保育をつくる会
	行　政	子育て支援課
事業の目的及び目標値	【目的】 緊急性を伴う預かりを行うことにより、保護者の仕事と育児の両立を支援する。 【目標値】 利用件数 40 件	
事業の内容	小学生まで児童を対象に病気、急な出張、保育施設での急な呼び出しがあった場合の送迎など、緊急性を伴う預かりを会員同士の相互の助け合いで行う。	
事業の実績（実施回数、参加者数など）	利用件数 11 件（預かり 7 件、送迎 4 件）、利用会員数 233 名、協力会員数 31 名	
協働事業決算	総額924，000円 （うち市負担分924，000円）	
	簡単な内訳	委託料 （内訳） 人件費　657，519円 広報費　41，555円 講習会費用　64，869円 保険費用　17，309円 通信費　42，139円 一般管理費　91，667円 その他　2，775円
実施期間	令和5年4月1日　から令和6年3月31日　まで	
協働の形態	□共催　■委託　□補助	

2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	○	○
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり返り段階

話し合いをした日：　令和６年４月１９日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式） **【団体⇒行政】** サポート会員の加入に向けて、講習会の実施時期や事業内容について共有を図った。 **【行政⇒団体】** サポート会員の加入に向けて、講習会の実施時期や事業内容について共有を図った。		
6	上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式） **記入者【　団体　・　行政　】** サポート会員に係る講習会の周知方法を改め、受講者が増加するような改善策を図り共有した。		

吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

4-2

提出日	令和6年5月21日	
記入者	団体等名	NPO 法人よしかわ子育てネットワーク
	記入者名	中島　眞由美
	部署名	子育て支援課
	記入者名	坂本　敦哉

1｜協働事業の概要

協働事業名	ホームスタート事業	
事業の実施者	団体等	NPO 法人よしかわ子育てネットワーク
	行　政	子育て支援課
事業の目的及び目標値	【目的】育児に不安を抱えている保護者を対象に家庭訪問を通じて育児相談を行い、保護者の孤立を防ぐ。 【目標値】訪問回数：230回	
事業の内容	未就学児を抱える引きこもりがちな親に対して、一定のノウハウを身につけた地域ボランティアが自宅へ出向き、何気ない会話のなかで孤立感を防止し、児童虐待を防止することはもとより、家族のエンパワーメントを図ることで子どもの利益を実現する。	
事業の実績（実施回数、参加者数など）	訪問回数：316回 ビジター数：38名	
協働事業決算	総額1，605，000円（うち市負担分1，605，000円）	
	簡単な内訳	人件費：1，185，984円 研修費：　150，500円 通信費：　96，000円 消耗品：　20，000円 交通費：　80，000円 その他：　72，136円
実施期間	令和5年4月1日　から令和6年3月31日　まで	
協働の形態	□共催　■委託　□補助	

2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、１枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	○	○
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり返り段階

話し合いをした日：　令和６年４月２４日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式） **【団体⇒行政】** コロナが緩和された影響もあり、需要が高まっていることを共有した。 **【行政⇒団体】** コロナが緩和された影響もあり、需要が高まっていることを共有した。		
6	上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式） 記入者【　団体　・　行政　】 様々なニーズに対応できるよう、ビジター（訪問支援員）のスキルアップと人員確保についての必要性を共有した。		

吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

4-3

提出日	令和6年5月21日	
記入者	団体等名	NPO 法人よしかわ子育てネットワーク
	記入者名	中島　眞由美
	部署名	子育て支援課
	記入者名	坂本　敦哉

1｜協働事業の概要

協働事業名	子育て支援センター運営事業	
事業の実施者	団体等	NPO 法人よしかわ子育てネットワーク
	行　政	子育て支援課
事業の目的及び目標値	【目的】児童福祉法に定められた子育て支援事業の一つ。地域における子育てを支援するため、子育て中の親子の交流の場の提供、子育て相談、地域の子育て関連情報の提供など、子育て支援センターの運営を行う。(美南子育て支援センター及び中央子育て支援センター) 【目標値】 利用者数(延べ)　合計14，000人	
事業の内容	(1)子育てサロン等子育て支援事業の展開 (2)出前講座の開催 (3)吉川市子ども・子育て応援サイト「よしよしねっと」の管理運営	
事業の実績（実施回数、参加者数など）	利用者数(延べ) 美南子育て支援センター:8，021人 中央子育て支援センター:6，747人	
協働事業決算	総額14，078，000円　(うち市負担分14，078，000円)	
	簡単な内訳	人件費　13，047，101円 消耗品　120，000円 負担金等　65，200円 研修費　15，000円 講師謝金　60，000円 賠償保険等　45，130円 その他　724，814円
実施期間	令和5年4月1日　から令和6年3月31日　まで	
協働の形態	□共催　■委託　□補助	

2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	○	○
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり返り段階

話し合いをした日：　令和６年４月２４日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式） 【団体⇒行政】 感染症対策の手法や、提供されている備品などについて、現場目線の意見が取り入れられるなど、それぞれの立場を尊重し合える関係性が得られた。 目的のすり合わせをして、目的に合った行動の選択を共有できた。 【行政⇒団体】 感染症対策の手法や、提供されている備品などについて、現場目線の意見が取り入れられるなど、それぞれの立場を尊重し合える関係性が得られた。 目的のすり合わせをして、目的に合った行動の選択を共有できた。		
6	上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式） 記入者【　団体　・　行政　】 子育て支援センターを運営する上で、疑問や不安などを感じたときは、言語化して共有するとともに、記録を行い、より目的を意識した行動の選択ができるように改善を図った。		

吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

4-4

提出日	令和6年5月21日	
記入者	団体等名	吉川市青少年相談員協議会
	記入者名	水野　和希
	部署名	子育て支援課
	記入者名	鈴木　達也

1｜協働事業の概要

協働事業名	青少年相談員活動推進事業	
事業の実施者	団体等	吉川市青少年相談員
	行　政	子育て支援課
事業の目的及び目標値	新型コロナウイルスの流行の中、「新しい生活様式」が普及し、青少年を取り巻く環境や遊びも大きく変化している。携帯型ゲーム機等の普及で、青少年の「バーチャルな世界」は拡大傾向にある。一方で、自分の身体を使い、鍛える「リアルの世界・遊び」は年々享受しにくい社会になっているように感じる。青少年が大人として成長していく過程で、実社会や自然の中で養う活きる力が不可欠であると考える。本協議会では野外活動での体験を通じ、青少年の主体性や協調性など「活きる力」の醸成を目指すことを目的としている。	
事業の内容	参加者全員で公園などでレクリエーション活動や料理等を行う。その中で、一人一人のリーダーシップを育むこと、仲間と協力して取り組むことの大切さを学ぶ。	
事業の実績（実施回数、参加者数など）	4年ぶりの開催となるサマーキャンプ 【令和5年度サマーキャンプ参加者】 相談員：7名 参加者：15名 計：32名	
協働事業決算	総額　146，000　円	
	簡単な内訳	市補助金額：146，000円
実施期間	令和5年4月1日　から令和6年3月31日　まで	
協働の形態	□共催　□委託　■補助	

2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、１枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	○	○
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり返り段階

話し合いをした日：令和５年５月２４日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式） **【団体⇒行政】** **サマーキャンプの周知方法や事前準備までの課題について共有した。** **【行政⇒団体】** **サマーキャンプの周知方法や事前準備までの課題について共有した。**		
6	上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式） **記入者【　団体　・　行政　】** 4年ぶりの開催でサマーキャンプ開催までの段取り等について共有した。 サマーキャンプの周知方法や事前準備までの課題について共有した。		

吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

4-5

提出日	令和6年5月20日	
記入者	団体等名	NPO 法人たすけあい・よしかわ
	記入者名	代表理事　野田　妙子
	部署名	健康長寿部　長寿支援課
	記入者名	近藤

1｜協働事業の概要

協働事業名	老人福祉センター運営事業	
事業の実施者	団体等	NPO 法人たすけあい・よしかわ
	行　政	健康長寿部長寿支援課
事業の目的及び目標値	本事業は、老人福祉センターの指定管理者として施設の管理をするとともに、高齢者に対して各種の相談に応じ、健康の増進、教養の向上及びレクリエーションの供与などの運営をすることを目的とする。	
事業の内容	老人福祉センターは高齢者の教養の向上、健康の保持増進、社会参加の拡大、いきがいづくりなどを目的に設置された施設である。平成18年度から吉川市連合長寿会が指定管理者として運営していたが、令和2年度より NPO 法人たすけあい・よしかわが指定管理者となっている。	
事業の実績（実施回数、参加者数など）	1　施設利用状況 令和5年度利用者数：21，111名 利用団体数：556団体 2　寄り日開催状況 令和5年度クラブ数：120団体 参加人数：1，433名 3　自主事業 ぱれっとサロンなないろ　回数：48回　参加人数：1，968名 シニア卓球くらぶ　回数：50回　参加人数：824名 ぱれっとシアター　回数：5回　参加人数：119名 スマホ教室　回数：12回　参加人数：38名	
協働事業決算	総額　29,574,000 円　（うち市負担分　29,574,000 円）	
	簡単な内訳	委託料
実施期間	令和5年　4月　1日　から　令和6　年　3　月　31日　まで	
協働の形態	□共催　■委託　□補助	

2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	○	○
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり返り段階

話し合いをした日：　令和６年　４月　９日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式） **【団体⇒行政】** 施設利用者数は戻っているが引き続き感染症予防を行う。各種自主事業に工夫を凝らし、利用者から好評を得ている。地域に開かれた施設として、誰もが気軽に参加できる斬新な企画の自主事業を引き続き実施していく。 **【行政⇒団体】** 引き続き、センターの活性化に努め、利用者の拡大と満足度の向上に努めてほしい。		
6	上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式） **【団体】** 今後も利用者の需要を見極め、求められる自主事業を検討・展開し、新規の利用者を増やしていきたい。 **【行政】** 高齢者の憩いの場、活動・活躍の場として、誰もが利用しやすい施設となるよう、行政として協力していきたい。また、連合長寿会の事務局として、引き続きサポートをお願いしたい。		

吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

4-6

提出日	令和6年5月20日	
記入者	団体等名	NPO 法人たすけあい・よしかわ
	記入者名	代表理事　野田　妙子
	部署名	健康長寿部　長寿支援課
	記入者名	近藤

1｜協働事業の概要

協働事業名	生涯現役の養成事業～世代を越えた交流による、元気シニア創生とまちづくり～	
事業の実施者	団体等	NPO 法人たすけあい・よしかわ
	行　政	健康長寿部長寿支援課
事業の目的及び目標値	本事業は、これまで地域社会と関わる機会が少なく地域デビューに結びついていない男性シニアや、これから退職時期を迎える男性シニアなどに向けた地域活動等への参加支援を実施することで、地域デビューへの不安を取り除くとともに地域活動等への参加促進を図ることを目的とする。	
事業の内容	男性シニアの地域活動などへの参加を後押しするため、NPO 法人たすけあい・よしかわに事業を委託し、シニア元気塾（グループ別活動）を実施した。また、シニア元気塾たまり場の運営を行い、参加者の自主的活動の支援、交流、情報交換を行った。	
事業の実績（実施回数、参加者数など）	1　シニア元気塾の開催 野菜作り、高齢者福祉の増進（福祉有償運送事業）、スポーツで子どもたちと交流、吉川市歴史探訪・ウォーキングの4グループで活動した。 参加者数：延べ 291 名 （福祉有償運送事業については 1,144 件の利用があり、11,510 キロの運送を行った。） 2　シニア元気塾たまり場の開催 毎月第1・第3水曜日に平沼地区高齢者ふれあい広場において、参加者の自主的活動（笑いヨガ、歌声喫茶）の支援、シニアへの情報提供と相互交流の場作りを行った。 参加者数：延べ 211 名	
協働事業決算	総額　1,029,000　円　（うち市負担分　1,029,000　円）	
	簡単な内訳	委託料
実施期間	令和5年4月1日から　令和6年3月31日　まで	
協働の形態	□共催　■委託　□補助	

2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	○	○
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり返り段階

話し合いをした日：　令和６年　４月　９日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式） **【団体⇒行政】** 多くの市民に参加してもらうためには、行政の支援（広報等）は重要。コロナ禍においては、感染対策をしながら参加者の自主的な活動を支援していく必要があり、また持続性のある事業展開のために子育て世代も巻き込んでいきたいと考えている。地域に根ざした市民団体の力という強みと役割を活かして、活動できている。 **【行政⇒団体】** コロナ禍において活動やイベントの企画運営が困難な状況であるが、各グループで工夫し、地域活動の参加促進に努めていた。		
6	上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式） **【団体】** 引き続き、持続性のある事業展開を目指しつつ、事業の目的に沿うような事業を展開し、新たな参加者の新たな活動の創出につなげていく。 **【行政】** 事業目的である男性シニアおよびアクティブシニア層の地域活動の参加促進を図るため、事業の参加者募集や団体の取り組みについて広報を行うなど、引き続き支援を行っていくとともに、適宜事業内容に等ついて見直しを進めていく。		

吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

4-7

提出日	令和6年 2月 6日	
記入者	団体等名	吉川市民まつり運営委員会
	記入者名	田村 正夫
	部署名	市民参加推進課
	記入者名	岡庭 侑香

1｜協働事業の概要

協働事業名	吉川市民まつり助成事業	
事業の実施者	団体等	吉川市民まつり運営委員会
	行 政	市民参加推進課
事業の目的及び目標値	吉川市民まつり運営委員会に対し、予算の範囲内において補助金を交付することにより、市の物産品や市内企業の PR 及び活性化を目指し、より一層ふるさとづくりを推進することを目的とする。	
事業の内容	市民が互いに交流を深め、コミュニティづくりの推進を図るとともに、市民文化の向上や農業・商工等の振興に寄与するため、吉川市民まつり運営委員会を設置し、市民が主体となった企画・運営で市民まつりを開催する。	
事業の実績（実施回数、参加者数など）	開催までに、市民を委員とした運営委員会等を計6回行い、企画等の意見を交わした。4年ぶりの開催ということもあり、まつり当日は市内外から多くのお客様が来場し、大いに賑った。来場者アンケートでは「また来たい」との回答を99%いただき、多くの来場者から「楽しかった」との声もいただくことができた。	
協働事業決算	総額	3,861,290 円
	簡単な内訳	印刷費（218,955 円）、会場費（3,599,736 円）、備品購入費（5,500 円）、消耗品費（9,206 円）、イベント事業費（22,843 円）、事務費（5,050 円）
実施期間	令和5年5月31日 から 令和6年2月6日 まで	
協働の形態	☑共催 □委託 □補助	

2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	○	○
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり返り段階

話し合いをした日：　令和６年２月６日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式） **【団体⇒行政】** 販売時間の周知方法や搬出入ルール、行列をスムーズに整列させることが出来るテント配置等について行政と共有し、解決策について意見交換した。 **【行政⇒団体】** 前回の市民まつりを開催した際に挙げられた課題をもとに、販売開始時間の周知を図るための方策や、搬出入ルールについて話し合った。また、市民まつりをより一層盛り上げるためのイベントについてアイデアを出し合い、実現に向けて話し合った。		
6	上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式） 記入者【　団体　・　行政　】 市民まつり来場者及び出展団体アンケートで出された意見を団体・行政間で共有したうえで、各委員から改善のための取り組みについて意見を出していただいた。出された意見については、来年度の運営委員会に引き継ぎ、次年度の市民まつりに向けて具体的な運営方法を検討していく。		

吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

4-8

提出日		令和6年4月　6日
記入者	団体等名	吉川市自治連合会
	記入者名	髙﨑　康男
	部署名	吉川市市民参加推進課
	記入者名	岡庭　侑香

1｜協働事業の概要

協働事業名	地域課題を地域で解決するための勉強会	
事業の実施者	団体等	吉川市自治連合会
	行　政	吉川市市民参加推進課
事業の目的及び目標値	様々な地域課題の解決に向け、市民と行政との協働で研究を行い、活気と幸福実感あふれるまちを目指す。	
事業の内容	①多文化共生班②自治会課題班の2つの分科会に分かれ、「地域課題を地域住民が解決するための事業」について研究・実施した。また、今年度より勉強会を充実させるために、大学ゼミとの③共同研究を開始した。 【令和5年度の取り組み】 ① 多文化共生班…バスハイク、吉川市民まつりポスター（外国語版）作成、吉川市民まつりパンフレット（やさしい日本語版）作成。 ② 自治会課題班…地域課題を地域で解決するための持続可能な仕組みづくりや地域活動の活性化に向けた取り組みについて議論、「かけはしプロジェクト」の代表を招き講話を開催。 ③ 共同研究…流通経済大学坂野ゼミと連携し、地域コミュニティの活性化をはかるために、地域と行政でできる取り組みを探していく。市内現場確認や座学を含めたフィールドワーク、大学教授による講座、自治会及びまちづくり協議会へのヒアリングを行った。	
事業の実績（実施回数、参加者数など）	令和5年度実績（実施日、参加人数） ① 多文化共生班…5/18（15 名）、6/20（28 名）、7/28(13 名)、9/25(13 名)、11/2(14 名)、1/18(14 名)、3/18(12 名) ②自治会課題班…5/17(12 名)、7/19(13 名)、9/13(11 名)、11/30(12 名)、1/22(11 名)、3/12(13 名) ③共同研究…12/20（10 名）、1/22(9 名)、2/2(15 名)、2/19(7 名)、2/26(5 名)、3/6(5 名)、3/12(9 名)	
協働事業決算	総額　35，000円　（うち市負担分　35，000円）	
	【内訳】 講師謝礼：35，000円（市負担）	
実施期間	令和5年4月1日　から　令和6年3月31日　まで	
協働の形態	☑共催　□委託　□補助	

2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

「△」は、一部実施できなかった場合に選択してください。

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	○	○
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり返り段階

話し合いをした日：　令和６年４月４日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式） **【団体⇒行政】** 様々な地域課題を解決するために、自治会関係者だけではなく、困りごとがある当事者（外国人の方等）の話を直接聞く機会をどう増やしていくかが課題である。自治会の枠にとらわれず、他団体・多世代の生の声を聞きながら議論することで、本当の意味で様々な立場の方に「吉川市に住んで良かった」と思っていただけるまちづくりにつながると感じた。 **【行政⇒団体】** 今年度については、流通経済大学との共同研究がスタートし、坂野ゼミメンバーも勉強会へ参加していただけることになった。自治会の枠を超えた新たな地域コミュニティ組織の取り組みについて、昨年度設立した中曽根小学校区まちづくり協議会を参考に、今後については、地域課題を地域で解決するための仕組みづくりについての理解を深めていき、どのような仕組みづくりにしていくかを考えることが必要である。		
6	上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式） 記入者【　団体　・　行政　】 自治会活動においては、会員間の連携が以前よりも弱まっているなかで、自治会の枠にとらわれず、他団体・多世代の生の声を聞きながら連携を深めていく必要がある。次年度は、新たな視点で地域課題を捉え、さらに活動内容を広げられるよう、引き続き検討していく。		

吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

4-9

提出日	令和6年　6月　11日	
記入者	団体等名	吉川市国際友好協会
	記入者名	会長　立澤　秀子　学習部会長　郭　育子
	部署名	市民参加推進課
	記入者名	星野　有香

1｜協働事業の概要

協働事業名	日本語教室	
事業の実施者	団体等	吉川市国際友好協会
	行　政	市民参加推進課
事業の目的及び目標値	日本語が話せない外国出身の方に、日本語をはじめ、日本の生活文化などを教えるとともに、参加者同士のコミュニケーションの場を提供し、多文化共生、異文化交流の推進を図る。	
事業の内容	主催：吉川市国際友好協会(スタッフ管理、教材・備品購入など) 共催：吉川市(施設予約、資料印刷、日本語教室ボランティアスタッフ養成講座の開催など) ボランティアスタッフが日本語で日本語を教える形式で実施。基本的に学習者とスタッフが1対1で生活に必要な日本語を学ぶ。	
事業の実績（実施回数、参加者数など）	①日本語教室(おあしす) 毎週火曜日　午前の部(10時～12時) 第二、第四火曜日　夜間の部(19時～21時) ・年間46回実施(午前の部) 年間24回実施(夜間の部) ・参加者延べ人数 午前の部　学習者　211人、スタッフ　340人 夜間の部　学習者　130人、スタッフ　127人 合計　学習者　341人、スタッフ　467人	②日本語教室(吉川美南) 第二、第四土曜日　(14時～16時) ・年間　24回実施 ・参加者延べ人数 学習者　76人、スタッフ　87人 合計　学習者　76人、スタッフ　87人
協働事業決算	総額　77,431　円　(うち市負担分　77,431　円)	
	簡単な内訳	支出　77,431　円 (　教室用　教材テキスト書籍　ホワイトボード等文具備品　) ※市から吉川市国際友好協会への補助金55万円 うち日本語教室への補助率10/10、　77,431　円補助
実施期間	2023年　4月　1日　から　2024年　3月　31日　まで	
協働の形態	☑共催　□委託　□補助	

2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	○	○
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり返り段階

話し合いをした日：　令和６年５月２６日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式） **【団体⇒行政】** 日本語教室の活動の他にスタッフミーティング等にも場所の予約が必要になった場合は、変則な場合おいても臨機応変に部屋の変更など協力いただき市民活動を中断なしでスムーズに継続できた。 今年度は、おあしすの工事の影響も活動にあったが、ほぼ計画通り実行できた。 **【行政⇒団体】** ・スタッフが少ない中にも関わらず、昨年度に引き続き、午前の部の教室を毎週開催していることや、日本語教室の後にスタッフミーティングを開催し、日本語教室がさらに良くなるよう話し合い時間を作るなど、スタッフの熱意と行動に感謝している。 ・ボランティアスタッフの人数不足の課題が出てきているので、新しいボランティアがまずは増えていくように周知に力を入れていきたい。		
6	上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式） 記入者【 団体 ・ 行政 】 昨年度も課題として出されていた、学習者数などを含む事業実施報告書（紙）デジタル化についてとSNS版の導入（教室案内及びタイムリーな活動の告知）の2点引き続き具体案が示されるのを期待する。		

吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

4-10

提出日	令和6年　5月　24日	
記入者	団体等名	吉川ほたるの会
	記入者名	会長　森田　保
	部署名	農政課
	記入者名	山下　朱音

1｜協働事業の概要

協働事業名	市民農園ほたる鑑賞会	
事業の実施者	団体等	吉川ほたるの会、吉川市市民農園管理組合
	行　政	吉川市産業振興部農政課
事業の目的及び目標値	地域の活性化を目指し、吉川市市民農園において市民向けのほたる鑑賞会を開催する。	
事業の内容	ほたるドーム内で鑑賞会を実施した。また、打上花火やミニマルシェも同時開催し、イベントの少ない旭地区で夏祭りをイメージした鑑賞会を開催することができた。	
事業の実績（実施回数、参加者数など）	実施回数　令和5年6月30日（金）、7月1日（土）　計2回 参加者数　1,315人	
協働事業決算	総額　314,339　円　（うち市負担分　　0　円）	
	簡単な内訳	ほたる鑑賞会食事代 花火代
実施期間	令和5年　6月　30日　から　　令和5年　7月　1日　まで	
協働の形態	☑共催　　□委託　　□補助	

2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1 枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	△	△
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	○	○
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり返り段階

話し合いをした日：　令和５年　７月　４日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	△	△
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	△	△
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	△	△
5	事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式） **【団体⇒行政】** 屋外鑑賞ゾーンや、駐車場などの安全管理を徹底する必要がある。 **【行政⇒団体】** よりよい鑑賞会場のレイアウトの検討が必要。 駐車場内に停めていた車に、参加者（子ども）が石を車に当ててしまいガラスが割れてしまったため、警察を呼んだ場面があった。		
6	上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式） 記入者【 団体 ・ 行政 】 **【団体】** 駐車場誘導については、今後消防団に委託することも視野に入れているが、費用が数万円かかるため検討が必要。引き続き、ほたるの会会員と連携して参加者の安全確保に努めるとともに、より充実したイベント開催を目指す。 **【行政】** 今後は、団体が独立してイベントを開催できるよう、バックアップに努める。		

吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

4-11

提出日	R6年　6月　24日	
記入者	団体等名	吉川市国際友好協会
	記入者名	会長　立澤　秀子　郭　育子
	部署名	学校教育課
	記入者名	松岡　伸悟

1｜協働事業の概要

協働事業名	外国人児童生徒への日本語学習支援	
事業の実施者	団体等	吉川市国際友好協会
	行　政	学校教育課
事業の目的及び目標値	市内小・中学校に就学する外国籍児童・生徒のうち、日本語の理解力が不足しているために、円滑な学校生活を送ることが困難な児童・生徒に対して個別に日本語学習支援を行うことで、円滑な学校生活を送るとともに、学力の向上を図る。	
事業の内容	・諸外国から入国（転入）し、市内小・中学校へ就学した児童・生徒のうち、日本語の理解力が不足していると認められる場合に、学校長からの申請に基づき、市教育委員会（学校教育課）が日本語学習支援業務の委託先である吉川市国際友好協会へ支援活動を依頼する。 ・吉川市国際友好協会は、支援対象児童・生徒、学校等と調整の上、支援活動担当者、活動日等を決定し、市教育委員会及び学校へ通知し、活動を開始する。	
事業の実績（実施回数、参加者数など）	対象となる児童生徒　23人	
協働事業決算	総額626，000円（うち市費負担分626，000円）	
	簡単な内訳	活動単位　一時限　小学校45分、中学校50分 一時限あたりの委託料　1，000円
実施期間	令和5年5月9日　から　令和6年3月22日　まで	
協働の形態	□共催　☑委託　□補助	

2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	△	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	△	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	△	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	△	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	△	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	△	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	△	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	△	○
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	△	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	△	○

③ふり返り段階

話し合いをした日：令和６年６月２４日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	△	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式） 【団体⇒行政】 来日直後学校を日本語ゼロスタートの児童生徒について応急的な短期集中型（週１以上）「初期指導」の緊急性と重要性の課題がある事を伝えた。学校教育課から前年度とは違う新たな体制や制限（基本週1）の説明は話されたが、こちらからの現場の観点で充分な話し合いの場が設けられる事がなく過ぎた。 【行政⇒団体】 活動報告書により団体と学校間での情報の共有は図られている。より一層の綿密な連携が望ましい		
6	上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式） 記入者【 団体 ・ 行政 】 【団体】 「初期指導」の重要性を今回再び話し合い優先度を決めて支援時間を割り振る改善策を今年度は試してゆく共通目標を入れた話し合いができた。県費の教員との協働や最低限のダブル支援の情報共有も課題として数年出している。県費教員による支援とYIFAの支援を吉川市全体としてとらえ学校教育課が主導で支援のニーズの現状を包括的に把握していただきたい。次年度の体制を予算の見込みも含め正確に実行するには現場の各学校とはもちろん委員会との更なる情報交換と計画的な共通目標の設定が必須となる。 【行政】 教職員に対しても本事業の意図を理解してもらう。 引き続き、国際友好協会、学校、市教育委員会間で必要に応じた連携を図れるようにする。		

吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

4-12

提出日	令和6年　4月　　日	
記入者	団体等名	美南小学校区子どもの体験活動実行委員会
	記入者名	福田　稔之
	部署名	吉川市教育委員会生涯学習課
	記入者名	尾花　香穂

1｜協働事業の概要

協働事業名	吉川市子どもの体験活動	
事業の実施者	団体等	美南小学校区子どもの体験活動実行委員会
	行　政	教育委員会生涯学習課
事業の目的及び目標値	家庭・地域・学校が一体となって子どもの生きる力を育むため、各小学校区に設置した実行委員会により体験活動等を企画し、子どもたちの奉仕活動や体験活動などを推進する。	
事業の内容	市内の子どもを対象とした事業目的に総活動を実施する団体（実行委員会）に対し、交付金を交付する。	
事業の実績（実施回数、参加者数など）	令和5年度実績 〇美南小学校区　8事業　　336名	
協働事業決算	総額　167，078円（うち市負担分　48，450円）	
	簡単な内訳	企画・会議費　　41，530円 子どもの活動費　122，853円 事務費　　2，965円
実施期間	令和5年4月1日　から　令和6年3月31日　まで	
協働の形態	□共催　□委託　☑補助	

2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	○	○
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり返り段階

話し合いをした日：　令和６年３月２９日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式） 【団体⇒行政】 活動の様子を見学（記録撮影）するため、事業当日に生涯学習課職員にも参加いただいた。 子どもたちの生き生きとした表情を見ることができ、良い体験の場を提供できたと思う。 【行政⇒団体】 美南小学校区以外の児童への周知、一部イベントのオンライン開催、他団体との共催により、児童が本事業に参加する機会を増やすことができた。活動の継続・拡大のために本事業について、一層の周知を図っていきたい。		
6	上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式） 記入者【 団体 ・ 行政 】 引き続き協働し実施することで、子どもたちが楽しんで参加できるよう努める。		

吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

4-13

提出日	令和6年4月7日	
記入者	団体等名	指定管理者 OIT グループ
	記入者名	新井　真哉・竹林　聡
	部署名	吉川市教育委員会生涯学習課
	記入者名	笹原　康友

1｜協働事業の概要

協働事業名	市民交流センターおあしす指定管理者事業	
事業の実施者	団体等	指定管理者OITグループ
	行　政	教育委員会生涯学習課
事業の目的及び目標値	市民交流センターおあしす、市立図書館、視聴覚ライブラリー、中央公民館図書室、旭地区センター図書室の管理運営に関し、指定管理者による適切な業務が遂行されるよう管理監督を行う。	
事業の内容	市民交流センターおあしすや市立図書館をはじめとする各図書室の運営と管理を行うとともに、おあしす運営協議会や図書館協議会を開催する。また、利用者に対する満足度調査を行う。	
事業の実績（実施回数、参加者数など）	（令和5年度実績） おあしす利用実績　　利用件数:7，008件、利用人数:71，643名 市内図書館(室)利用実績　貸出冊数:413，035冊、利用人数:95，491名、 市立図書館入館者数:158，371名	
協働事業決算	総額　241，288，704円（うち市負担分　241，288，704円）	
	簡単な内訳	施設管理業務委託料　241，288，704円
実施期間	令和5年4月1日　から　令和6年3月31日　まで	
協働の形態	□共催　☑委託　□補助	

2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	○	○
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり返り段階

話し合いをした日：　令和６年３月２８日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式） **【団体⇒行政】** 毎月開催する定例会において、課題の共有を図るとともに、改善、解決に向け、生涯学習課より的確なアドバイス、明確な指示を受け、課題解決に繋がった。また、長寿命化（中規模）改修工事に伴う利用者対応及び利用制限等について都度協議し、安全な施設利用を心掛けた。 **【行政⇒団体】** 主に with コロナや長寿命化改修工事中の施設運営について協議をし、利用者への影響を極力抑える方法を検討し対応した。		
6	上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式） 記入者【 団体 ・ 行政】 長寿命化改修工事完了後のより良い施設運営につなげるため、利用者の利便性を高められるような対応について話し合った。		

吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

4-14

提出日	令和　6年　4月　日	
記入者	団体等名	子育て広場プーさん
	記入者名	嶋田　曜子
	部署名	生涯学習課　中央公民館
	記入者名	森　恵子

1｜協働事業の概要

協働事業名	幼児家庭教育学級(赤ちゃんサロン)「ゼロママ集まれ！」	
事業の実施者	団体等	子育て広場プーさん
	行　政	吉川市中央公民館
事業の目的及び目標値	子育て中の母親が抱える子育ての不安・悩みやストレス等を解消する一助となるよう、「子育て広場プーさん」と協働で開催し、年齢の近い子どもを持つ母親が集まる場を提供するだけでなく、専門の講師等から有用な技術を得ることができる事業を展開する。	
事業の内容	わらべ歌、おもちゃ講座、フォトレッスン、応急救命講座、えほんの選び方、ピラティス、ベビーマッサージなど	
事業の実績（実施回数、参加者数など）	実施回数　全10回 参加者数　84組　173人	
協働事業決算	総額　29，000　円（うち市負担分　29，000　円）	
	簡単な内訳	会場使用料免除 講師謝礼金　29，000円を市が負担
実施期間	令和　5年　4月　26日　から　令和　6年　3月　27日　まで	
協働の形態	☑共催　□委託　□補助	

2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	○	○
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり返り段階

話し合いをした日：　令和　6年　3月27日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式） **【団体⇒行政】** 例年同じ講師でお願いしているが、講師の方が前年以上の内容を毎年工夫してくださっていて、ありがたい。 **【行政⇒団体】** 日頃より、参加対象者のニーズを情報収集していただき、翌年度の事業開催に向けて目標をもって活動してくださっている。		
6	上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式） 記入者【　団体　・　行政　】 コロナで団体（子育て広場プーさん）の活動人数が減っているため、講座内容によっては人手が足りないことがあるかもしれないので、どのように講座を運営していくか調整していく。		

吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

4-15

提出日	令和 6年 4月 日	
記入者	団体等名	えほんのひろば
	記入者名	古川 和江
	部署名	生涯学習課 中央公民館
	記入者名	森 恵子

1｜協働事業の概要

協働事業名	えほんのひろば	
事業の実施者	団体等	えほんのひろば
	行 政	吉川市中央公民館
事業の目的及び目標値	絵本の素晴らしさに触れ、親しみを感じ、子どもたちが豊かな心を育むことを目的に、えほんのひろばのボランティアスタッフと共に開催するものです。	
事業の内容	お楽しみ会や、七夕、クリスマスのイベントなどを実施。ボランティアスタッフによる絵本の読み聞かせや遊び、ゲームなどを行う。	
事業の実績（実施回数、参加者数など）	実施回数 全5回 参加者数 132人	
協働事業決算	総額 0 円（うち市負担分 0 円）	
	簡単な内訳	会場使用料免除 講師謝礼金 今年度は 0 円
実施期間	令和 5年 4月 22日 から 令和 6年 2月 3日 まで	
協働の形態	☑共催 □委託 □補助	

2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、１枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	○	○
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり返り段階

話し合いをした日：　令和　５年　１月２８日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	△	△
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式） 【団体⇒行政】 毎回参加される方は違うが、皆さん楽しんで帰られていると思う。 【行政⇒団体】 新しいボランティアの方が入られて、活性化されていると思います。		
6	上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式） 記入者【　団体　・　行政　】 新しいボランティアの方のアイデアも生かしながら継続していく。		